

まちづくりにおける駐車場政策に関する 課題等について

国土交通省 都市局
街路交通施設課
令和4年12月15日

1. 第1回検討会のふりかえり

- (1) 第1回検討会での主な意見
- (2) 第2回検討会の主な検討項目
- (3) 今後の検討の流れ

2. 駐車場政策に関する5つの観点

- (1) まちづくりにおける駐車場政策の理念・目的
- (2) 施策(仕組み)のあり方
- (3) 公と民の役割分担のあり方
- (4) まちづくりにおける駐車場の柔軟な活用のあり方
- (5) 新たな時代(DX, GX)に対応した駐車場施策のあり方

1. 第1回検討会のふりかえり

- (1) 第1回検討会での主な意見
- (2) 第2回検討会での主な検討項目
- (3) 今後の検討の流れ

(1) 第1回検討会での主なご意見 ①

【全体について】

- 大規模小売店舗立地法など様々な法制度がある中で、**そうした法律を束ねる駐車場政策に関する基本的な方針**(例えば、道路上と道路外に停める役割、都市部のみならず観光地等も含めた対応などに関する方針)があるとよいのではないか。
- 計画のあり方だけでなく**計画の運用のあり方も論点**に含めるべきではないか。
- 附置義務制度の運用について、**地域ルールにおける負担金や隔地・集約**などを含め、改めて整理すべきではないか。
- 駐車場の対応が個別施設から地区へと変わっており、**公共交通やシェアサイクルなど他の交通モードとどのようにリンクするか、モビリティハブ・交通結節点としての検討**が必要ではないか。
- 駐車場の管理側**としては、都心への自動車交通の流入量が減ってきてはいても、イベント時などで利用があるという実績があると、隔地を受け入れることは難しいという判断になることがある。**車利用の抑制を前提とした駐車場政策があってしかるべきではないか。**
- 交通施設としての駐車場と土地利用としての駐車場の2つの側面から検討を進めていくことが必要ではないか。

(1) 第1回検討会での主なご意見 ②

【配置適正化や転用にむけた仕組みについて】

- 駐車場をつくるための仕組みから変えるための仕組みにしていくこと、既存駐車場のリノベーションやリロケーション、時間帯で荷さばき対応や大型バスにも活用できる空間整備を誘導していくことが必要ではないか。
- 荷さばきについては、道路とのシェアを考えていく必要があるが、場合によっては車道だけでなく歩道と荷さばきスペースを、時間帯で分けてシェアすることも考えられるのではないか。
- まちなかの小規模な駐車場の集約を後押ししていくためのインセンティブが必要ではないか。また、駐車場の需要の総量は確保されている場合、新設を抑制していくことが必要だが、現状ではお願いベースとならざるを得ない。規制で法的根拠を持たせることも考えられるが、駐車場以外にすることで経済合理性があるようなインセンティブがあるとよいのではないか。
- 具体の転用を検討する際には、荷さばきに使おうと思うと入口が小さくて入れないという構造的な問題や、消防法の問題などもある。

(1) 第1回検討会での主なご意見 ③

【公と民の役割分担、住民参加について】

- 公と民の役割については整理が必要。民間の駐車場は遊休地を暫定的に活用しているものも多いため、建築物に代わってしまう場合には担保性が無くなってしまいうちに留意が必要ではないか。
- 地域ルールは商店街や土地所有者等と作っていくが、地域全体での合意をとっていくことが重要であるため、駐車場の関係者も入ってもらうことが必要ではないか。
- 地域貢献策については地域の方々の発意が重要であるため、まちづくりに参加してもらう方に、駐車場を考えることが大事とわかってもらうことも必要ではないか。
- 大きな開発が無い地域において、どのように地域が発意してまとまっていけるかが課題である。機能更新が必要だが、賑わいを分断してしまうことも懸念される。過去の事例においては、地権者に対する照会において、地域外にお住いの地権者も多い中での合意形成も課題であった。
- 民間活力を得るという観点では、補助金よりも規制緩和が重要。ビジネスで運用していく上では、附置義務があるがゆえに小規模な駐車場を整備してしまっていたり、機械式で空いていても運用ができなかったり等の問題がある。小規模な附置義務を大型の駐車場に委託できるようになるとよい。住宅地でも宅配などで需要が増えてきている。

(1) 第1回検討会での主なご意見 ④

【新たな時代への対応について】

- バブルのころに作られた機械式駐車場は耐用年数が20～30年であり、それらの入れ替えが始まっている。古いものは現在と基準も異なっており、また、**駐車場に入れない車両**もあるので、そうした点についても議論したい。
- 防災まちづくりの観点も論点**に含んでいただきたい。自走式駐車場は津波や洪水にも強く、車・人の避難場所としても利用可能で、各自治体との防災協定も進んでいる。
- デジタル化が進んでいるが、既存駐車場のデジタルでの連携はまだまだできていない。デジタル化が進むことでまちづくりにも活かせ、利用者の利便性も高まる。**DXを含めた幅広いマネジメント**を見据えるのがよいのではないか。
- 今後のことを考えると、**自動運転への対応**についても議論が必要ではないか。

(2) 第2回検討会での主な検討項目

第1回検討会の意見を踏まえ、
第2回検討会では、以下の5つの観点からご議論いただきたい。

(1) まちづくりにおける駐車場政策の理念・目的

(2) 施策(仕組み)のあり方

(3) 公と民の役割分担のあり方

(4) まちづくりにおける駐車場の柔軟な活用のあり方

(5) 新たな時代(DX, GX)に対応した駐車場施策のあり方

(3) 今後の検討の流れ

短期(R4)

中期(R5~)

長期



理念の整理

まちづくりにおける駐車場政策
の論点整理
(R4検討会とりまとめ)

個別の検討事項の深堀

関係制度の見直し

【現行で可能】

- 「まちづくりと連携した駐車場施策ガイドライン」に反映・更新

【引き続き議論】

- 引き続きの検討テーマ、具体的な検討事項等の整理

- 個別の検討事項について、WG等が必要に応じて設置し、具体事例も扱いながら、各々詳細検討を進める

- 検討状況は、随時検討会の場で共有

- まちづくりにおける駐車場政策に関する基本的な考え方の整理
- 現行制度の見直すべき事項の整理

これからのまち(都市)における
適正な駐車場の“つくり方”“つかい方”

中期

○地域の特性等を踏まえた現状分析と検討

- －都市部、地方部、観光地等における詳細な駐車場の実態把握、課題の分析
- －適切な需給バランスと配置論の検討
- －自動二輪、荷さばき、バリアフリー 等

○駐車場整備地区・計画のあり方

- －記載すべき事項の整理、作成の際の留意事項・手引き等の検討 等

○附置義務制度のあり方

- －附置義務の評価、実態に即した附置義務を課するための仕組み、適切な原単位の設定手法等の検討 等

○標準駐車場条例・地区マネジメントのあり方

- －地域の課題解決につながる駐車場政策を実現するための条例や地区マネジメントのあり方の検討 等

○安全対策の強化

- －機械式駐車場の安全対策 等

○最新の動向把握、事例の収集

- －柔軟な活用、新たな時代(DX、GX)への対応、海外事例 等

長期

○まちづくりにおける駐車場政策に関する基本的な考え方の整理

- －多岐にわたる駐車場に関する制度を踏まえた総合的な駐車場政策のあり方の検討
- －現行制度の見直すべき事項の整理 等

○完全自動運転化に対応した駐車場のあり方

- －インフラ側で必要な対応、乗降場の確保、自動車の保有形態の変化を踏まえた対応 等

【参考】駐車場政策のあり方について(論点案)

○今後の駐車場施策のあり方

- ・ 昭和32年の駐車場法制定後、附置義務制度等により、駐車場の量的整備については一定程度進展したところ。駐車場に係るニーズが多様化している中で、今後の社会情勢の変化等を踏まえて、量的な供給だけでなく、質の高い駐車場の整備を進め、まちの魅力の向上を図ることが必要。

整備

地域特性に応じた整備

- ・ 都心部
 - － 附置義務の過剰
- ・ 地方都市
 - － スポンジ化対策
- ・ 住宅地
 - － 車庫、来客車両、宅配需要
- ・ 工業団地・物流拠点
 - － 貨物車

計画のあり方

- ・ 駐車場整備地区
- ・ 駐車場整備計画
- ・ 都市計画駐車場
- ・ 附置義務条例・特例措置

管理運営

管理運営のあり方

- ・ 届出制度のあり方
(届出事項、管理規程)
- ・ 料金施策のあり方
(エリアマネジメント、駐車需要マネジメント)
- ・ 駐車場関連データのあり方
(データの標準化、利活用)
- ・ 他用途への転換

(計画策定・**運営**の視点)

- ・ フリンジ公共パーキング
- ・ 公共交通や他交通機関との連携
- ・ 需給バランス調整(時間・空間)
- ・ 出入口制限・通行規制
- ・ **隔地・集約化のスキーム**
- ・ 荷さばき対策
- ・ 多様な利用者への配慮
- ・ EV・自動運転等への対応

安全対策

構造及び設備の基準

- ・ 車両規格・マスの変化
- ・ EV(車重、充電設備)
- ・ 自動運転
- ・ 多様なモビリティ
- ・ 構造基準の遵守の担保(届出)

機械式駐車場の安全対策

- ・ 適切な更新
- ・ 維持管理の効率化
- ・ 定期的な安全点検

まちづくりにおける 駐車場のあり方

- ・ 他交通モードとの連携、
総合交通体系での位置づけ
- ・ DX、GXへの対応

2. 駐車場政策に関する5つの観点

- (1) まちづくりにおける駐車場政策の理念・目的
- (2) 施策(仕組み)のあり方
- (3) 公と民の役割分担のあり方
- (4) まちづくりにおける駐車場の柔軟な活用のあり方
- (5) 新たな時代(DX, GX)に対応した駐車場施策のあり方

(1)まちづくりにおける駐車場政策の理念・目的

これまでの駐車場政策の主たる理念・目的は

『道路交通の円滑化』（≒主に自動車交通需要への対応）

これからの「まちづくりにおける駐車場」に求められる役割は？

都市の総合交通体系における位置づけ、まちづくりにおける位置づけ 等

（幹線道路・公共交通・末端交通との連携、適正配置や行動変容等）

（土地の有効活用、可変的な場としての活用等）

※公衆の利便に資するとともに、都市の機能の維持及び増進に寄与

1) 交通施設としての駐車場

- ・ ヒトとクルマの結節点、より低速なモビリティへの転換
- ・ 大型車・小型車・多様なモビリティとの結節点、モビリティハブ
- ・ モノ（貨物）を積降して運搬するための拠点
- ・ 一般公共の用に供する観点から、安全性、バリアフリーへの配慮

2) 土地利用としての駐車場

- ・ 暫定的な土地利用（時間帯、曜日等による需要変動）
- ・ 変化する都市内の余白（連鎖的な建て替えのタネ地、暫定的な工事ヤード） 等

(2) 施策(仕組み)のあり方について

- ・ 現状の施策は、『駐車施設の整備』（＝量的充足）がメイン
一方、規制緩和や特例措置等により供給量や配置の適正化を誘導
- ・ 海外では、立地規制や台数制限、金銭負担等の施策も展開
駐車場単体ではなく公共交通機関との役割分担も考慮
- ・ まちづくり（土地利用）の観点から、計画的なスペースの確保
既存ストックの柔軟な利活用等も求められる

これからの時代に求められる

「まちづくりにおける駐車場」の施策展開はどうあるべきか？

- ・ 敷地単位の自動車需要から、エリア単位の総合的な交通需要への対応
（地区レベルでの総合的な交通対策、面的料金施策等による駐車需要マネジメント）
- ・ 路上と路外の適切な役割分担や交通規制
- ・ 多様なニーズに対応した質を考慮した駐車場の確保
- ・ 安全対策を含めた運営段階における規制・誘導
- ・ 道路(自動車)交通の円滑化のみならず、快適な歩行者空間の確保
中長期的なまちづくりの観点から必要な土地の確保等の多面的な目標設定

(3) 公と民の役割分担のあり方について

- 駐車場整備計画等に基づき、
公共が自ら都市計画駐車場等を整備するとともに
附置義務駐車制度等による民間の駐車場整備を促進
- さらには駐車禁止の取締強化等ともあいまって、
民間施設としての駐車場の整備が進展
- 供給量については可変性を許容しつつ最低限の担保も必要

「まちづくりにおける駐車場」の施策展開を図るにあたり
公と民との役割分担はどうあるべきか？

- 駐車場整備計画において担保すべき駐車場供給量の再検討
- 民間駐車場の整備動向や運用の工夫等も含めた総合的な駐車対策の検討
- 周辺のまちづくりや交通事情も踏まえた総合的な交通体系への位置づけ
- 多様な地域の関係者との連携を促進するための検討体制づくり

(4) まちづくりにおける駐車場の柔軟な活用のあり方について

都市内における駐車場は「駐車」機能のみならず
まちなかの「場」としても多様な活用が期待される

まちづくりにおいて「駐車場」が
「場」としても貢献しうる場面や活用方法は？

※公衆の利便に資するとともに、都市の機能の維持及び増進に寄与

- ・既存駐車マスの改変によるバリアフリー対応、他のモビリティの受け入れ
- ・共同荷捌きや積替等が可能な荷捌き施設の整備
- ・キッチンカーやモバイルハウスなど多機能のクルマの受入環境整備
- ・備蓄倉庫、避難場所、電源基地(EV)等、駐車場の他用途への転換(一時的・恒常的)
- ・暫定的なイベントの開催等、一時的な賑わい空間の創出
- ・建設工事ヤード、建替時の一時移転先としての活用
- ・民地や公共用地等の暫定的な駐車場への転換

等

- 利用動向データの活用によるリアルタイム混雑情報・満空情報の提供、需要に応じた料金変動、他交通機関との連携
- デジタル技術の活用による（無人）予約制駐車場の導入、遠隔監視、保守点検の効率化
- 自己保有のみならずシェアリングも普及、さらには、空間（スペース）のシェアリングや予約制駐車場も普及
- 新たな技術の台頭と駐車場に必要とされる機能の変化
(効率性から汎用性、安全性強化、充電設備・AVP等の高付加価値 等)

新たな時代（DX、GX）の到来を踏まえ

「まちづくりにおける駐車場」の施策展開はどうあるべきか？

- データ連携・デジタル技術の活用
 - － 駐車需要管理及び駐車場一体運用管理（Parking Management）
 - － 維持管理の効率化による安全性の向上
- シェアリングの普及動向もふまえた駐車需要の推計
- まちづくりを考慮したEV充電設備の計画的配置
- 一時的な駐車需要に対応する候補地の確保